

**テーマ：貿易統計（2015年4月）**

発表日：2015年5月25日（月）

～貿易収支は再び赤字に。当面は一進一退の推移が続く見込み～

第一生命経済研究所 経済調査部

担当 副主任エコノミスト 高橋 大輝

TEL：03-5221-4524

		貿易収支(億円)				輸出数量						輸入数量		
		原数値	季調値	輸出金額		アメリカ			EU			アジア		
				前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比
14	1月	▲ 27951	▲ 17811	9.4	25.1	▲ 0.2	6.3	5.5	▲ 2.0	8.0	15.3	9.3	10.9	
	2月	▲ 8061	▲ 10170	9.8	9.1	5.4	▲ 1.0	8.2	5.0	▲ 0.5	16.1	8.6	▲ 2.8	
	3月	▲ 14501	▲ 19036	1.8	18.2	▲ 2.5	1.5	▲ 0.3	▲ 4.9	11.6	13.3	12.8	11.3	
	4月	▲ 8255	▲ 9244	5.0	3.6	2.0	▲ 1.5	4.8	▲ 1.3	▲ 1.3	6.2	0.7	1.0	
	5月	▲ 9172	▲ 8791	▲ 2.8	▲ 3.5	▲ 3.4	▲ 1.9	6.4	▲ 5.0	▲ 4.0	1.0	▲ 0.7	▲ 2.3	
	6月	▲ 8341	▲ 10853	▲ 2.0	8.6	▲ 1.6	▲ 1.8	4.5	▲ 5.4	7.2	6.5	7.9	8.2	
	7月	▲ 9665	▲ 10221	3.9	2.4	1.0	▲ 1.0	3.7	0.7	▲ 0.4	▲ 0.6	▲ 2.8	▲ 2.7	
	8月	▲ 9532	▲ 9188	▲ 1.3	▲ 1.4	▲ 3.0	▲ 6.2	1.0	▲ 3.5	▲ 4.6	▲ 2.4	▲ 3.3	▲ 5.0	
	9月	▲ 9620	▲ 10566	6.9	6.2	2.8	▲ 1.1	▲ 4.9	4.8	3.0	0.0	4.0	3.1	
	10月	▲ 7418	▲ 8347	9.6	3.1	4.8	▲ 0.4	3.2	4.4	▲ 1.8	7.9	3.7	▲ 3.7	
	11月	▲ 8988	▲ 8037	4.9	▲ 1.6	▲ 1.7	▲ 3.7	▲ 4.4	▲ 1.3	▲ 6.9	▲ 9.8	▲ 0.6	▲ 6.4	
	12月	▲ 6656	▲ 6056	12.8	1.9	3.9	8.4	3.6	0.3	▲ 1.8	8.8	▲ 6.6	▲ 4.1	
15	1月	▲ 11738	▲ 2977	17.0	▲ 9.1	11.1	2.9	6.4	15.4	▲ 6.3	▲ 14.7	▲ 7.8	▲ 9.9	
	2月	▲ 4285	▲ 5688	2.5	▲ 3.6	▲ 2.1	1.9	3.3	▲ 3.4	4.5	▲ 10.0	▲ 5.5	11.3	
	3月	2274	50	8.5	▲ 14.5	3.2	5.8	13.7	3.3	▲ 10.3	10.4	▲ 9.4	▲ 15.9	
	4月	▲ 534	▲ 2087	8.0	▲ 4.2	1.8	7.1	5.2	0.1	0.1	4.6	▲ 3.7	▲ 4.4	

(出所)財務省「貿易統計」

## ○貿易収支は再び赤字に

4月の貿易統計が財務省より発表され、貿易収支は534億円の赤字（コンセンサス：▲3,511億円、レンジ：▲9,170～400億円）となった。輸出金額は価格と数量がともに押し上げとなり前年比+8.0%（コンセンサス：+6.0%、レンジ：▲7.5%～+9.2%）と8ヶ月連続の増加、輸入金額は低水準で推移する原油価格が引き続き下押しとなり同▲4.2%（コンセンサス：▲5.7%、レンジ：▲5.7%～+4.5%）と4ヶ月連続で減少した。

季節調整値では、輸出金額が前月比▲1.5%と減少、輸入金額は同+1.8%と5ヶ月ぶりに増加した。季節調整値でみた貿易収支は2,087億円の赤字と再び赤字となり、貿易収支は原数値、季節調整値ともに再び赤字となった。先行きについては、海外経済の持ち直しを背景に輸出金額の緩やかな増加が見込まれる中、原油価格の上昇を背景に輸入金額も増加傾向で推移することが予想され、貿易収支（季節調整値）は当面一進一退の推移になると見込んでいる。

## ○実質輸出は横ばい

為替などの物価変動の影響を除いた実質輸出（実質化、季節調整は第一生命経済研究所試算）は、前月比+0.1%（3月：同+1.3%）とほぼ横ばいとなった。1-3月期平均と比較すると、▲1.5%の減少だが、高水準を維持しており底堅い推移となっている。

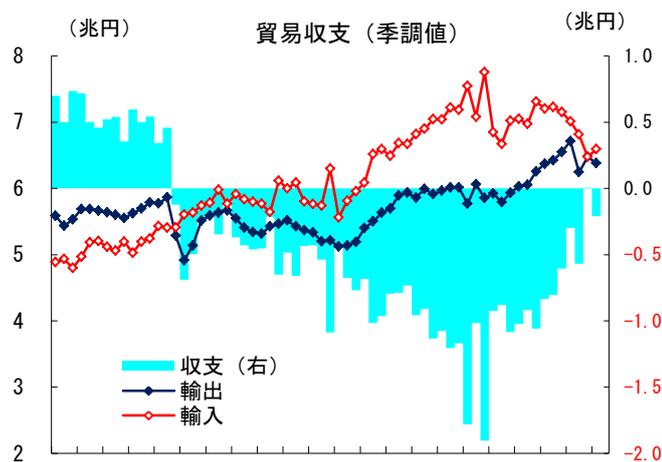
地域別にみると、米国向けは、一般機械や輸送用機器、電気機器の減少を背景に前月比▲0.9%と減少した。もっとも、米国向けの水準は依然として高いものとなっており、堅調な推移が続いていると評価される。EU向けは一般機械や輸送用機器が下押しとなり、同▲6.7%と減少した。比較的大きい減少となったが、EU

向けは振れが大きく、均してみれば昨年11月頃をボトムに持ち直し傾向が続いている。アジア向けは同+0.4%と小幅増加した。中国向け(同+2.4%)、NIEs向け(同+2.7%)は増加したものの、ASEAN向け(同▲3.4%)が減少したことがブレーキとなった。中国経済の減速が周縁国の重石となり、アジア向けは伸び悩んでいる。

### ○先行きの実質輸出は緩やかな増加基調を予想

4-6月期の実質輸出は、米国経済や中国経済の足取りが鈍いことなどを背景に緩慢な動きになる可能性があるが、先行きの実質輸出は基本的には海外経済の回復を背景に緩やかな増加基調が続くと予想している。米国経済は悪天候や港湾ストなどの一時的な下押しが剥落することで、安定成長に戻っていくだろう。欧州経済は、ユーロ安や金融緩和の効果が徐々に顕在化することで景気は上向きつつあり、先行きも緩やかな成長が見込まれる。中国経済は足元で減速しているものの、昨年11月以降立て続けに行った金融緩和の効果が顕在化してくることで徐々に減速に歯止めがかかってくるだろう。また、その他のアジア経済については、米国景気の回復や原油安効果などを背景に緩やかな回復基調を辿るとみている。こうした海外経済の回復が後押しとなり、実質輸出は緩やかな改善基調を辿ると予想している。

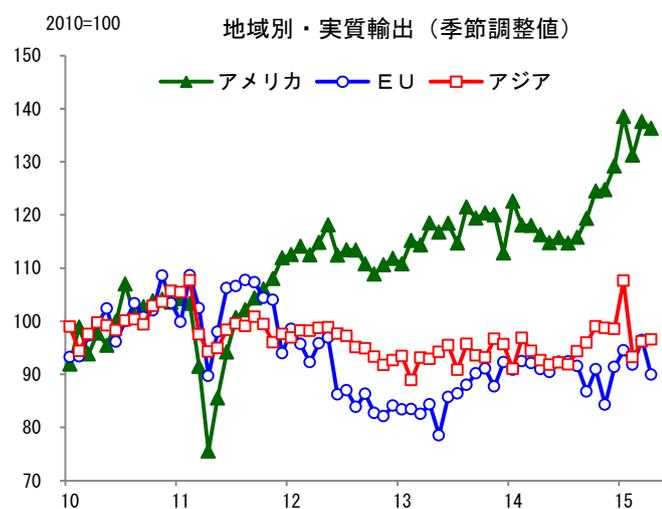
なお、4月の経常収支(季節調整値)は、貿易黒字幅の縮小を背景に経常収支額は減少することが見込まれるものの、1兆円を越える黒字になると予想している。



(出所) 財務省「貿易統計」



(出所) 財務省、日本銀行 (注) 横線は四半期平均値  
※実質化および季節調整は第一生命経済研究所



(出所) 財務省、日本銀行 ※実質化および季節調整は第一生命経済研究所